

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700133		
法人名	特定非営利活動法人 太良の里		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホーム 太良の里		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐2491番地1		
自己評価作成日	令和2年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年3月18日	外部評価確定日	令和2年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりとした施設内配置、広い敷地、そして専用の花壇、野菜畑、果樹園があり自然豊かで理想的環境条件が整っている。又、日々の生活が家族的雰囲気がある。私自身がこの先施設介護を必要とする場合に入居したくなる様な施設環境、上質な介護のある施設運営を目指しております。施設と共に育ってきたどんぐりの木々が約10mに成長し、沢山の実がつけ出しました。立派な林に育ってきました。</p> <p>入居者作品 山あいの しずかな空気につつまれて とげなし介護に心やすまる。 温かき介護 心いやされ 永遠に 絆深めん 太良の里にて。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成16年に開設し、「ゆっくりと」「自分らしく」「共に暮らす」をキーワードに、利用者本位の支援で、全職員が一体となってその実現を目指している事業所である。</p> <p>事業所は自然豊かな山里の麓にあり、広い敷地内には野菜畑、果樹園があり、散歩道も整備されている。利用者は自然の移り変わりを感じながら散歩したり、お茶や食事をする事もある。畑で収穫した季節の新鮮な野菜は、食卓に上っている。どんぐり林には、近所の方の立ち寄りもあり、「地域の憩いの場」にもなっている。挨拶や言葉を交わすだけでなく、ミカンや海苔をいただいたり、逆に畑の野菜を近所におすそ分けをする等の交流もある。また、事業所ホールでピアノコンサートを開いたり、地元の高校生がボランティアで訪問する等、地域との交流も多い。</p> <p>利用者の希望をも考慮した変化のある年間の行事も実現している。</p> <p>協力医療機関とは何時でも連絡や相談が出来る関係にあり、月2回の訪問看護と相重なって、利用者や家族の医療面や健康面の安心感となっている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・太良の里の理念“ゆっくりと自分らしくそして共に生きる”に基づき、地域住民の皆様とも共に楽しく、そして穏やかに生活できる場になっている。 ・毎日の引継ぎミーティング及び月例ミーティング時を活用し、全職員の共有に向け、話し合っている。	ミーティングで介護理念が日々の支援に結び付いているかを確認している。また、介護理念を名刺の裏に刷り込んでいる。職員は常に介護理念を共有し、日々の支援に具体的に活かされている。理念そのものについても話し合う機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入し、地域の浮立や奉仕作業、その他の行事に参加している。また病院の文化祭などに入居者が作った作品を出品している。ホーム行事のコンサートなどには、地元住民も多数参加し、一緒に楽しんでいただいている。	地域と事業者は積極的に関わりを持っている。事業所のすぐ近くに住まいがあるスタッフもいて、地域の情報を共有したり、地域の行事に参加もしている。地域の方が事業所に見える機会も多い。中庭のどんぐり林は、地域の憩い場にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	太良の里敷地内及び隣接地には専用の広い花だん果樹園野菜畑があり、入居者の他に地域の方々にも開放し、憩いの場として利用して頂いている。また職員は認知症サポーター研修に積極的に参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は6回開催した。エイサー太鼓やピアノコンサートなどの開催と合わせて入居者の健康状態の報告や普段の生活の様子を伝えている。	年6回の開催である。利用者の健康、生活状況、行事内容報告の他に、様々な議題で話し合いがもたれている。ピアノコンサート、消防訓練、避難訓練、シルバー会会長の話、高校生ボランティアの来訪、自己評価及び外部評価、高齢化が進む地域の現状と事業所の関わり等極めて有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営者、管理者はホーム開設当初から行政当局とひんばんに顔を合わせ、情報交換を行っている、町を通じて森林組合からもらった自然木を利用して作ったテーブルやベンチは入居者に憩いの場所になっている。	町役場や広域介護事業所とはこれまでも密接な協力関係が保たれている。「ホームだより」も連携を深める一助にもなっている。「地域包括ネットワーク」「地域システム研究会」を通じて行政とは情報の共有が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、どんな事があっても拘束は行わないという姿勢で介護を実践しております。但し本人又は他入居者などの生命又は身体を保護するため、緊急上やむを得ない場合はこの限りではない。	外部研修や事業所独自でも勉強会を重ね、職員の身体拘束や虐待の無いケアの意識は高く、身体拘束の無い支援に取り組んでいる。「高齢者虐待防止10カ条(ちいきでぎゃくたいぼうし)」にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止関連法について学習し理解している。 ・利用者と家族間及び事業所内で虐待が見過ごされてないよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県及び太良町が発行している地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について学習し、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居/退居の際、利用者家族に対して不安、疑問点が生じないように十分な説明を行い理解/納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がサービスに関する意見、要望を職員に伝えることができるよう、「希望の声」の用紙を設置している。また利用者が運営会議メンバーやその他の人に伝えることが出来るよう入居契約時に説明している。	家族との接点を大事にしている。面会時や利用料の支払いに家族が見えた時は、笑顔で話しやすい雰囲気になる様に努めている。ホームだよりに写真でも暮らしの様子を具体的に伝えたり、日常の外出先の理解をお願いしたり、アンケートからも家族の意向を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・意見不満苦情の集約 玄関受付に「希望の声」用紙を設置し、無記名で自由に記入出来るようにしている。 ・月例職員ミーティング及び毎日の朝礼ミーティング時に運営に関する意見、要望、提案につき聴取し、運営に活かしている。	職員の異動が少なく、それだけに職員間は管理者や代表者を含めて、日常から意見や相談事を遠慮なく言え、互いに解かりあえる関係である。冊子「職場の教養」を毎朝目を通したり、ミニ研修会を開いたり、介護についての悩みを受け止めて話し合ったり、対人関係のストレスを無くすために管理者から声かけをするなど、多くの事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・運営者や管理者が運営や管理について職員の声に耳を傾け、より良い運営に反映させている。 ・職員の勤務体制や臨機応変な対応につき管理者と職員間の話し合いの納得の上で調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくこと	管理者職員の能力、特性、経験、年齢に応じ各種研修に参加させて、介護力アップにつなげている。 (目標:3回/年/人)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	太良町内は下記の福祉施設があり運営者職員はそれぞれ連帯を取り交流している。・太良町福祉協議会・太良町包括支援センター・高齢福祉施設・光風荘・太良病院居宅介護支援センター・高齢者保健施設・ふるさとの森・太良町社協・宅老所おおうら鹿島太良塩田グループホーム交流会。平成21年6月より合計6事業所による交流会を発足させ下記内容につき月1回開催している。・運営部会・管理者部会・介護者部会・ケアマネージャー部会		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族と面談し、話を良く聴くことを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族との思いの違いを聴取し、本人がベストの入居生活が出来るよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時本人/家族の実情の要望を元にして可能な限り対応している。また事業所として対応不可のサービスについては他福祉施設と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する一される」一方的な縦の関係の見直し「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が「介護する一される」一方的な関係でなく、家族が職員に介護をゆだねきりになる事なく、職員と一緒にやり、支援していく事が大切であると認識している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人との音信が絶えない様、状況に応じ、電話、ハガキ、手紙、を書く事など進めるなど、これ迄の関係が保たれる様、支援している。	親しい友人や知り合いの方とのつながりを大切にしており、面会もある。職員自体もその関係を把握し、絆を大切にしている。自宅までドライブして時間を過ごしたり、家族の協力を得ての一時帰宅もある。町内のこれまで馴染んできた場所への外出もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々人の経歴、趣味、性質等を把握し食堂での席次、風呂の順番などにつき配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居の場合には、転居先(自宅家族病院)へ訪問しその後の生活状況をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が入居者一人ひとりの思いや意向につき関心を持ち、また入居者が話しやすい会話内容/目線、姿勢で利用者様本人の対応をすべく心掛けています。	日常の暮らしの中で利用者の心を敏感に感じ取る様に努めている。入浴中や受診等で1対1になる時に、利用者の本音を聴く事も多い。新しい利用者は環境の変化の不安からくる行動もあるので、その要素を理解し、共感するように留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談受け時及び入居時に入居希望者(事前入居時)調査表に基き、生活歴、生活環境、これまでの経過などを把握し、以降の生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとり一人の健康、精神そして生活状態を観察し記録し、申し送り事項と共に後任者に引き継ぐなど総合的にチームとして把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成の基本方針として「入居希望者調査表」情報をもとに本人、家族、担当ケアマネジャーと協議の上作成し、入居後は本人の意向を折込み見直し(3ヶ月毎)行い家族の同意捺印を頂いている。	利用者本位で、その人らしく暮らしていけるような介護計画が作成されている。利用者と家族の意向を十分に汲み取り、毎日の支援の中での状況変化に対応している。アセスメントを含め、職員全員で意見を交換し、訪問看護師の助言も取り入れた具体的に、実現可能なプランである。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々人の生活上の記録は「生活/身体状況調査表」に記入し、職員そして計画作成担当者が共有し、協議の上、介護計画書に適宜折込み更改している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単に介護計画書に記載された介護支援にとどまらずグループホームの特性を生かしたこまわりのきく精神的にも心うきうきする変化のある共同生活を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様に協力して頂いている。 ・民生委員・ボランティア活動・教育機関・警察 ・消防署・自治会(老人会)・町役場など		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本方針は下記の通り ・主治医 入居までのかかりつけ医とする。 ・上項なき場合、施設の協力医が主治医 ・専門医が必要な場合、主治医の判断で専門医を紹介してもらっている。	家族と利用者が希望するかかりつけ医である。協力医の希望があれば、そちらでも対応している。協力医院とは24時間いつでも相談できる関係である。定期的な往診は月2回であり、専門医は家族の協力で受診している。歯科医院は訪問歯科を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者それぞれの健康状態をはじめ、生活状況を詳細に把握し、主治医に伝え、適切な受診につなげている。また週に一度、訪問看護による医療連携体制が整っており、安心した運営が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・施設の各職員は協力医と常時情報交換し、入居者の健康管理や医療活用の支援を得ている。入居者が入院した場合、より短期間に医療が終了し、退院となるよう病院関係者、本人御家族と話し合いを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・訪問介護による医療連携が整っており、重度化傾向に向かう入居者を含め全入居者の健康状態を把握し、ご本人、ご家族、訪看、施設間において情報を密にし、連携を図っている。また、入居時に重度化した場合や終末期の在り方について話し合う機会を設けている。	まず、契約時に医療についての意向を確かめている。重度化や終末期における支援についても丁寧な話し合いを持っている。看取り介護の事例もあり、家族や主治医と逐一連携を取り、安らかな最期を看取っている。職員も勉強を重ねており、自分だったらどうされたいか、家族にどう伝えるか、最期まで尊厳を守るにはどうするか等を勉強している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態発生時には下記マニュアルを作成し、全ての職員が応急手当や初期対応が冷静に実施出来るよう定期的に訓練を行っている。緊急事態発生時の処理/対応。・火災発生時の処理要領・火災時避難訓練		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域住民に協力を得られるよう働きかけている。 ・職員の多数が2～10分に自宅より緊急出動出来る体制をとっている。 ・平成22年4月にスプリンクラー設置装備 ・火災時には、消防署及び職員宅に即自動通報する様体制を整えている。	消防計画により、夜間の職員一人勤務の場合を想定した避難訓練を実施している。消防署の指導も受けている。また、運営推進会議の議題にも取り上げ、自然災害を含めて地域との協力、連携についての協議が行われている。非常食、飲料水は隣宅の理事長宅に備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に制約書を書かせ、また日常勤務時にも教育をして厳守させている。業務上知りえた利用者家族等及びその他の情報は在職中、退職後においても何人に対しても漏らしてはならない。	人権尊重、尊厳の遵守を利用者と接する時の基本としている。職員は倫理面の意識を変える努力をしており、常に利用者の立場に立った支援を心がけている。そこに職員の達成感や喜びが生まれ、利用者との信頼関係にもなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者9人は全員それぞれ異なった生活力を有しており、認知症の進行した方は判断力、自己表現力は低下しても適切な対応により発言、意志表示は可能であり表情もやわらぐ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日一日どう過ごしたいのか、普段の観察を通じ本人の意向をふまえて把握し、食事、入浴以外は本人のペース/意向に沿ったものとしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の個性、希望、生活に応じて髪型や、服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の前準備、調理配膳など個々人の能力に応じ職員と一緒にやっている。また専用の野菜畑、果樹園で収穫されたもの、旬の食材をいただいている。	食材に広い自家菜園で収穫した野菜が使われている。三食ともホームの台所で調理している。調理の音や美味しい匂いは、利用者に食事の楽しさを増している。食事にあたっては職員も利用者と同じ食卓につき、食事介助をしたり、それとなく見守りながら、一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者本人の好みや苦手なものの把握、喫食量、飲水料及び喫食状況については「身体介護記録」にてフォローしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、食後のうがい又は歯みがきを実施している。歯みがきの習慣が無かった方も歯みがきが定着化しました。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄：歩行が少々困難であっても職員の時間をかけての見守りでトイレでの排泄を心かけている。歩行の困難な場合には自室にポータブルトイレを設置している。オムツの使用は極力排除した介護を実施している。	利用者一人ひとりの排泄状況が把握されている。排泄チェック表の工夫、トイレ誘導の声かけの配慮、尿意を察する見守り、容量の多いパット使用の試み、夜間だけのポータブルトイレでの排泄など、その方に合った支援である。自立の方もいるが、見守りや言葉かけ、誘導、手伝い等の支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を改善するため、食生活を工夫、適当な運動及び歩行など自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入居者ひとり一人の意向を第一にくつろいだ気分で時間を気にせず入浴出来るように心掛けている。 ・又羞恥心及び恐怖心に対する個々人の状況に応じて十分配慮している。	二日毎の午前中入浴が基本であるが、お湯の準備は毎日出来ており、入浴希望があれば毎日でも入浴できる。入浴習慣や希望に応じた入浴支援である。果樹園での柚子を浮かべた柚子湯もある。ゆっくりとした入浴で、利用者の本音が聴ける場でもある。ヒートショック防止にも十分に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一日一日の生活が本人にとって自然のリズムで楽しく過せるよう配慮している。 ・不眠を訴える場合には健康状態を考慮して花だん果樹園、野菜園など散策することも効果的。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護主任を中心に薬の目的、副作用、用法、用量については共有、理解している。心身上の変化や異状があった場合医師、家族に連絡。以上の記録は「身体介護記録表」に詳細に記入し、フォローしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活気晴らしの支援として下記を実施。 ・洗濯物のたたみ仕分け配布・施設内の畑でとれた花、野菜、果物の仕分け・料理・花だん、畑、果樹園の手入れ・手芸など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者個々人、その日の希望に応じ敷地内花だん隣接地の果樹園、野菜畑散策を実施している。又どんぐり林の下での昼食会、お茶会など施設外で気分転換をはかっている。	ホーム敷地内に設けた散歩コースやホーム周辺の散歩、外気浴が多い。近所の方と出会い、挨拶やことばを交わしている。外出を好まない利用者もあり、無理にお誘いをしていない。紫陽花が見事なダム周辺やオレンジ道路などへのドライブもある。他グループホームとの合同運動会やレク大会にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々人の希望、能力に応じ、お金を所持したり使用出来るように支援している。 ・十分に金銭管理が出来ない方にも“はい、食事代です。電話代です等々”疑似の金銭授受を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙のやり取りが無理な方には大きな紙に自由に大きく書いて頂き、家族知人が来訪する時お見せする。 ・電話でのやり取りが無理な方には子電話にてダイヤルした状態で家族/知人と会話して頂くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは完全なバリアフリーですべり止め、手摺りが設置され安全な生活空間の確保、又採光、通風についても空調機、換気扇の設置の他自然採光、通風にも配慮し居心地よく過ごしていただいている。	自然採光の明るい室内で、無用な音や光も無い。リビングでの席替えは、車椅子利用の方を中心に考えられている。リビングには新聞も置いてあり、書き写しを続けている利用者もある。新聞のチラシは、買い物話題になったり、折り紙のゴミ袋として再利用されている。玄関には季節の生花があり、散歩中に摘んできた野の花も活けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす居室の他、談笑するリビング、和室そしてベランダ、又敷地内には花だん雑木林があり、2~3人で談笑できる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や生活用品、装飾品等自由に持ち込み出来、安心して過ごせる場所として利用してもらっている。	各居室は、唯一のプライベートの場所であり、利用者一人ひとりが自分らしく落ち着いて暮らせる空間になっている。ご仏壇やお気に入りのぬいぐるみ、孫やひ孫との家族写真、長年使ってきた目ざまし時計、整理ダンス、化粧品など、いろいろな品が家族の協力を得て、自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全なバリアフリーと共に全場所にすべり止め及び手摺を設置している他、個々人の状況に応じ、例えば杖に鈴をつける、歩行器“アルコー”の設置、ベットに手摺の取付など安心して自分から動き出す工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない